

平成28年度

— 第5回（定例・臨時） —

教育委員会議事録

開 会	平成28年 6月22日	14時30分				
閉 会	平成28年 6月22日	15時10分				
会議場所	教育委員室					
委員出欠	花山院弘匡	出	佐藤 進	出	森本哲次	出
	藤井宣夫	出	高本恭子	出		
議事録署名	教 育 長					
委 員	教育長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議案及び議事内容	結果
<p>次 第</p> <p>議決事項 1 平成29年度使用教科用図書採択基準等及び選定資料について</p>	<p>可 決</p>
<p>○吉田教育長「ただ今から、平成28年度第5回定例教育委員会を開催いたします。本日は委員全員出席で、委員会は成立しております。」</p>	
<p>○吉田教育長「まず、前々回及び前回の定例教育委員会議事録の承認についてです。お手元に配布している議事録について、各委員内容をご確認ください。ご承認をいただけますか。」</p> <p style="text-align: center;">※ 各委員一致で承認</p>	<p>承 認</p>
<p>議決事項 1 平成29年度使用教科用図書採択基準等及び選定資料について</p>	
<p>○吉田教育長 「それでは、議決事項 1 『平成29年度使用教科用図書採択基準等及び選定資料』について、ご説明をお願いします。」</p>	
<p>○深田学校教育課長 「平成29年度使用小・中学校特別支援学級及び特別支援学校の小・中学部教科用図書採択基準並びに選定資料について、ご説明します。</p> <p>平成29年度に使用する教科用図書の採択が適性かつ公正に行われるよう、採択基準及び選定資料を作成しました。なお、この採択基準及び選定資料については、奈良県教科用図書選定審議会の答申をもとに事務局で整えたものです。</p> <p>まず、平成29年度使用小・中学校特別支援学級及び特別支援学校の小・中学部教科用図書採択基準ですが、県教育委員会として採択権者の権限と責任のもと、教科書の内容についての十分な調査・研究を行うとともに、適正かつ公正な採択事務を徹底し、開かれた採択を一層推進すること等、この採択基準を示すことにより指導いたします。</p> <p>採択基準の内容についてご説明します。小・中学校特別支援学級及び特別支援学校小・中学部において使用する教科用図書の採択として、採択に当たっての基本的な事項や、採択を適正かつ公正に行うための配慮事項、採択決定に至るまでの方法や手続きなどを示しています。また採択権者が県教育委員会である県立特別支援学校小・中学部においては、『採択』を『選定』と読み替えます。</p> <p>次に、小・中学校特別支援学級及び特別支援学校の小・中学部教科用図書選定資料についてご説明します。小・中学校特別支援学級及び特別支援学校小・中学部において、検定教科書を使用することが適当でない場合は、絵本等の一般図書を教科書として採択することができ、毎年採択替えができることとなっていることから、選定の参考となる資料を毎年作成し、採択権者に送付することにより、助言、援助をもらうこととしています。選定資料については、調査員が絵本等の一般図書の調査・研究を行い、6月1日の教科用図書選定審議会にて精査し、作成しました。総冊数は341冊で、前回から15冊を削除し、新しく9冊を掲載しました。</p> <p>県教育委員会としては、この資料の提示をもって、公正な採択事務への助言、援助としたいと考えています。また県立特別支援学校小・中学部で教科書として使用する一般図書については、それぞれの学校で調査し、選定した結果をもとに、8月の定例教育委員会で採決することになっています。</p> <p>以上です。」</p> <p>○吉田教育長 「このことについて、何かご意見はございませんか。」</p>	

議案及び議事内容

○吉田教育長 「絵本は、通常学級で授業を受ける機会の多い特別支援学級でも使われているのでしょうか。」

○深田学校教育課長 「特別支援学級では、保護者の希望等もあって、通常学級での授業が多く行われており、あまり絵本は使われていないようです。」

○高本委員 「私の関わった特別支援学級では、絵本は使われていました。発達障害、自閉症の子どもたちで、通常学級では勉強がほとんどできませんでしたので、絵本は大変生かされています。（絵本等一般図書を教科書として使用することを）軽視してはいけないと思います。」

○吉田教育長 「他にご意見がないようですので、原案どおり議決してよろしいか。」

※各委員一致で可決

○吉田教育長 「議決事項1については可決いたします。」

その他報告事項

○吉田教育長 「その他報告事項について、ご報告をお願いします。」

○深田学校教育課長 「平成28年3月中学校卒業者の進路状況について、ご報告します。報告資料は平成28年4月12日現在で、学校教育課で調査したものです。

まず進路状況についてご報告します。中学校卒業生数は、平成元年3月卒業生をピークに減少傾向にあります。本年3月の中学校卒業生は、13,380人で、昨年度に比べて527人の減、ピーク時である平成元年3月の卒業生23,876人の約56%でした。また高等学校への進学者は、昨年度に比べて511人の減で13,094人。この中には、工業高等専門学校、中等教育学校後期課程、通信制課程への進学者を含んでいます。特別支援学校への進学者は142名、就職者は18名、専修・各種学校進学者数は73名です。その他53名ですが、その内訳は再受験の準備4人、家事従事者など49人です。

次に進学率等の推移についてご報告します。進路状況別進学率等の推移ですが、本年3月の高等学校への進学率は97.9%で、昨年度に比べて0.1ポイントの増でした。また特別支援学校への進学率は0.2ポイント増、就職率は0.1%で増減なし、専修・各種学校への進学率は0.2ポイントの減となっています。

次に、県内高等学校への進学率の推移について、全日制課程と定時制課程では85.7%で、昨年度に比べて0.3ポイントの減でした。

次に、へき地中学校卒業者の高等学校進学率の推移について、へき地指定されている13の中学校から高等学校への進学率は95.1%で1.1ポイントの減でした。

最後に、高等学校進学者13,094人のうち、県内中学校から高等学校全日制課程への進学者については、12,807人でした。このうち県内全日制への進学が11,300人、その内訳のうち主なものは、県立学校が7,860人、私立高校が2,647人となっています。県外全日制課程への進学が1,507人で、そのうち私立高校には1,378人が進学しています。

なお、県外中学校から奈良県内への全日制課程高等学校への進学者数について、国公立高等学校は162人、私立高等学校は692人でした。

以上です。」

○尾登文化財保存課長 「寄付型クラウドファンディング事業 デジタルブック『楽しく学べるならの文化財』作成事業を実施するための寄付金の募集について、ご報告します。

平成21年度に国の緊急雇用対策事業として作成した冊子『奈良の遺跡&史跡案内』が、予算が續かずに生かしていない状態でした。今回はこの冊子を改訂してデジタルブック化するものです。高等学校における『奈良TIME』で使える内容で編集しようと考えている他、中学校や高等学

議案及び議事内容

校の校外学習やフィールドワークに使えて、また奈良に関心をもつ方に魅力を伝えるガイドブックにもなると考えています。

また寄付が多額になれば、デジタルブックだけではなく、冊子にすることもできます。ちなみに、寄付が50万円になれば、高等学校の図書室に1冊ずつ置くことができます。また70万円になれば、高等学校に2冊ずつ、100万円になれば、中学校と高等学校に各1冊ずつ配布することができます。

支援をいただいた方には、寄付をいただいた方のお名前や企業名、団体名をデジタルブックに掲載するほか、様々な特典をご用意しています。

以上です。」

○西上教育研究所副所長 「平成28年度奈良県立教育研究所『教育セミナー2016』についてご報告します。

去る5月31日、教育研究所において、『教育セミナー2016』を開催しました。本年度のテーマは『ともに学ぶ！～“自ら学び、ともに学ぶ”アクティブ・ラーニング～』として、全体会では『アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善』と題して、国立教育政策研究所総括研究官に基調講演をいただきました。

また全体会終了後には、昨年度研究所が取り組んだ研究の発表報告を中心に、17の研究発表を行いました。

各校種の教職員を中心に、全体で約500名の参加をいただいて、盛況のうちに終わることができました。参加者のアンケートからは、『意欲的に授業に取り組む必要性を改めて勉強させていただいた』、『研究発表の中ではすぐにでも活用できる内容が多くて参考になった』等の感想をいただきました。

今後さらにアンケート等を細かく分析して、次年度の開催に生かしてまいりたいと考えています。

以上です。」

○吉田教育長 「このことについて、何かご意見はございませんか。」

○花山院委員 「中学校卒業者の進路状況について3点質問させて下さい。

進路状況として、その他53名で昨年度から10人減少していますが、この内訳と減少理由についてご報告下さい。

専修・各種学校進学者数が昨年度に比べて21人減少していますが、大きな変化です。理由は分析されていますか。

県内中学校から県外全日制課程に進学される生徒の、近年の状況、傾向はどのようになっていますか。」

○深田学校教育課長 「その他53名の内訳は、再受験の準備という理由で4人、家事従事者等が46人、少年院等の入所が3名です。昨年度は、再受験の準備が3名、家事従事者等が52名、少年院等の入所8名ですので、入所と家事従事者等が減少しています。

専修・各種学校進学者の減少理由については、分析できていません。

県内から県外に進学する生徒の人数割合に関しては、近年はおおよそ11%程度で推移しており、明らかな傾向を伴う変化はありません。」

○花山院委員 「進学先については自由ですが、県教育委員会としては、できれば県内に進学していただきたいところなので、その取組が必要ではないかと思います。」

○吉田教育長 「初めて12%台に達したところなので微増傾向にあるといえるのではないのでしょうか。」

○花山院委員 「(教育委員会は)公的な機関であるため、中立・公正であるべきだとは思いますが、県内には数多くの学校があり教育機関も充実しているので、なるべく県内や地元で勉学し

議 案 及 び 議 事 内 容

て、将来は全国、世界へ羽ばたいていってもらえるような、そのような発信があっても良い。県外進学が増えていることは由々しきことだと思います。」

○森本委員 「へき地の進学率は95.1%で、傾向を見ますと、平成19年度以降でワースト1となっています。どのような理由でしょうか。」

○深田学校教育課長 「傾向も含めた理由までは把握できていませんが、27年度からの減少について分析しますと、27年度のへき地指定13中学校の卒業生が131名でした。そのうち、高等学校進学以外として、特別支援学校に4名、就職が1名の5名でした。28年度の卒業生は123名で、特別支援学校が4名、専修・専門学校が1名、その他1名の6名でした。1人の差ですが、母数が小さいため見かけ上の影響は大きくなります。」

○吉田教育長 「クラウドファンディングの寄付金はどの程度集まっていますか。」

○尾登文化財保存課長 「300,000円で成立するところ144,500円となっています。」

○吉田教育長 「他にご意見がないようですので、原案どおり承認してよろしいか。」

※各委員一致で承認

○吉田教育長 「その他報告事項については承認いたします。」

○吉田教育長 「それではこれをもちまして、本日の委員会を終了します。」